

ISO 42001

適合性 チェックリスト



内容

はじめに	03	附属書A 管理策（拡張）	
箇条4 – 組織の状況	04	A.2 – AIに関するポリシー	11
箇条5 – リーダーシップ	05	A.3 – 内部組織	12
箇条6 – 計画	06	A.4 – AIシステムの資源	13
箇条7 – 支援	07	A.5 – AIシステムの影響評価	14
箇条8 – 運用	08	A.6 – AIシステムのライフサイクル	15
箇条9 – パフォーマンス評価	09	A.7 – AIシステムのデータ	16
箇条10 – 改善	10	A.8 – 利害関係者への情報提供	17
		A.9 – AIシステムの使用	18
		A.10 – サードパーティおよび顧客関係	19
		LRQAのISO 42001サービス	20
		LRQAを選ぶ理由	21

チェックリストを活用して、認証に向けた準備が十分かどうかをご確認いただけます。



このISO 42001適合性チェックリストは、人工知能マネジメントシステム（AIMS）を評価し、認証または移行審査前に注意が必要な領域を特定するための有用なツールです。

ISO 42001の主要な条項に基づいて構成されており、AIMSが規格の要求事項およびAIガバナンスの主要原則に適合しているかどうかを評価するのに役立ちます。チェックリストは以下をカバーしています：

- 組織の状況
- リーダーシップとガバナンス
- リスクの特定と影響評価
- 運用およびデータ管理の管理策
- ライフサイクル、透明性、第三者との関係

このチェックリストを使用することで、各要求事項を確認し、直接回答を入力できます。これにより、AI関連のリスクと責任をより包括的に理解し、確信を持って進めることができます。

箇条4 – 組織の状況

組織の目的、内部および外部の状況、そして利害関係者の期待を理解することは、効果的なAIマネジメントシステム（AIMS）を確立するために不可欠です。これにより、AIシステムの適用範囲、目標、ガバナンスの基盤が構築されます。

☐

AIシステムに関連する内部および外部の課題を特定していますか？

☐

利害関係者のニーズと期待を把握していますか？

☐

AIMSの適用範囲は明確に定義されていますか？

☐

AIMSは確立され、実施され、維持され、継続的に改善されていますか？

コメント

箇条5 – リーダーシップ

リーダーシップは、AIマネジメントシステム（AIMS）の確立と支援において重要な役割を果たします。トップマネジメントは、AIMSへのコミットメントを示し、組織の戦略的方向性と整合させ、明確な責任を割り当てる必要があります。

☐

トップマネジメントは、AIMSに対するリーダーシップとコミットメントを示していますか？

☐

組織の戦略的方向性と整合したAIポリシーが確立されていますか？

☐

AIマネジメントに関する役割、責任、権限が割り当てられ、伝達されていますか？

コメント

箇条6-計画

効果的な計画は、AIに関連するリスクと機会を積極的に管理することを保証します。これには、目標の設定と、組織がISO 42001の要求事項をどのように満たすかを定義することが含まれます。

☐

リスクと機会に対処するための行動は決定されていますか？

☐

AIリスクの評価および処理のプロセスはありますか？

☐

AIシステムの影響評価は実施されていますか？

☐

AIリスク評価は、AIポリシーおよびAI目標と整合していますか？

☐

適切なリスク処理オプションは選定されていますか？

☐

AI目標は設定され、それを達成するための計画は整っていますか？

コメント

箇条7-支援

支援には、AIMSの運用および改善に必要な資源、能力、コミュニケーション、文書管理が含まれます。チームが情報を得て、装備され、支援されていることは、一貫した実施のために不可欠です。

☐

AIMSに必要な資源は提供されていますか？

☐

教育、訓練、または経験に基づいて、職員の能力を確保するプロセスはありますか？

☐

組織の管理下で業務を行う者は、AIポリシーおよび関連手順を認識していますか？

☐

内部および外部のコミュニケーションは決定され、実施されていますか？

☐

AIMSおよびISO 42001で要求される文書情報は管理されていますか？

コメント

箇条8-運用

運用計画は、AIシステムが定義されたプロセスに従って開発・使用されることを保証します。これには、変更管理、影響評価、リスク処理の適用をシステムライフサイクル全体で行うことが含まれます。

☐

AIシステムの運用に必要なプロセスは、計画され、実施され、管理されていますか？

☐

AIリスクの評価および処理は、運用プロセスに統合されていますか？

☐

AIシステムの影響評価は、必要に応じて維持・更新されていますか？

コメント

箇条9-パフォーマンス評価

AIMSのパフォーマンスを評価することは、プロセスが効果的であり、成果が達成されているかを確認するのに役立ちます。内部監査およびマネジメントレビューは、継続的改善を推進するための重要なツールです

☐

AIMSの監視、測定、分析および評価は実施されていますか？

☐

内部監査は計画された間隔で実施されていますか？

☐

トップマネジメントは、組織のAIMSを計画された間隔でマネジメントレビューしていますか？

コメント

箇条10-改善

不適合やインシデントは発生し得ますが、重要なのは、それらを組織がどのように特定し、是正し、そこから学ぶかです。強固な改善プロセスは、AIMSの信頼性と有効性を持続的に確保するために不可欠です。

☐

改善の機会は特定され、実施されていますか？

☐

不適合および是正処置は効果的に管理されていますか？

コメント

附属書A 管理策（拡張）

A.2-AIに関するポリシー

責任あるAIの利用に向けた明確な方針を示し、その基盤を確立するために、組織はAIシステムの開発、導入、監督を導くポリシーを定めるべきです。このポリシーは定期的に見直され、事業目標、リスク許容度、法的義務と整合している必要があります。

☐

正式なAIポリシーが文書化され、トップマネジメントによって承認されていますか？

☐

ポリシーには、責任あるAIの利用と継続的改善の原則が含まれていますか？

☐

ポリシーは、適合性と有効性を確認するために定期的に見直されていますか？

☐

AIポリシーは、他の関連する組織ポリシーと整合し、参照していますか？

コメント

A.3-内部組織

AIマネジメントシステム全体における説明責任と明確性を確保するために、組織はAIのライフサイクル全体にわたる責任ある利用を支える役割、責任、エスカレーションプロセスを定義し、伝達する必要があります。

☐

AIシステムに関する役割と責任は明確に定義され、割り当てられていますか

☐

AIの利用または開発に関する懸念を報告するためのプロセスはありますか？

☐

懸念は機密にエスカレーションでき、報復から保護されていますか？

☐

報告メカニズムには、適切な調査および解決の手順が含まれていますか？

コメント

A.4-AIシステムの資源

AIシステムを支える資源の全体像を把握することは、リスク管理において不可欠です。これには、技術インフラ、データセット、ツール、人材の能力など、システムライフサイクルの各段階で必要となる要素が含まれます

☐

データ、ツール、システム、人材を含む、すべてのAI関連資源の登録簿が作成されていますか？

☐

ツールおよびコンピューティング資源は文書化され、システム要求事項に適合していますか？

☐

AIの開発および監督に関与する人材の能力と適性は評価・記録されていますか？

☐

インフラの環境的または運用上の影響は、該当する場合に考慮されていますか？

コメント

A.5-AIシステムの影響評価

個人および社会を保護するために、組織はAIシステムの潜在的な影響を評価し、文書化する必要があります。これらの評価はライフサイクルの重要な段階で実施され、設計やリスク処理の意思決定を導くべきです。

☐

個人、集団、または社会への影響を評価するための影響評価が実施されていますか？

☐

影響評価を実施するためのプロセスは文書化され、再現可能ですか？

☐

AIシステムの影響評価は、重大な変更後または計画された間隔で更新されていますか？

☐

評価結果は、設計、管理策、利害関係者とのコミュニケーションに反映されていますか？

コメント

A.6-AIシステムのライフサイクル

設計から廃止まで、AIシステムのライフサイクル全体は、明確に定義された要求事項、仕様、検証および監視プロセスによって支えられる必要があります。これにより、継続的な信頼性と意図された使用目的との整合性が確保されます。

☐

責任ある開発のための目標が定義され、文書化されていますか？

☐

検証および妥当性確認のプロセスは明確にされ、組織の目標と結び付けられていますか？

☐

利用者、パートナー、規制当局向けの技術文書が用意されていますか？

☐

特にシステム使用中のイベントログは記録・保管されていますか？

コメント

A.7-AIシステムのデータ

高品質で倫理的に調達され、適切に文書化されたデータは、安全で効果的なAIシステムの基盤です。組織は、AIライフサイクルの各段階において、データの選定、準備、評価の基準を定める必要があります。

☐

AI開発のためのデータ管理プロセスが文書化されていますか？

☐

データソースは明確に特定され、出所および使用目的が記録されていますか？

☐

データの品質に関する要求事項は定義され、定期的に見直されていますか？

☐

データ準備の方法は文書化され、正当化されていますか？

コメント

A.8-利害関係者への情報提供

システム利用者や規制当局を含む利害関係者には、管理しているAIシステムを理解・使用・評価するために必要な情報が提供されなければなりません。これは、透明性、説明責任、信頼性を支えるものです。

☐

利用者およびその他の利害関係者に、必要なシステム文書が提供されていますか？

☐

AI関連のインシデントを報告・エスカレーションするためのプロセスはありますか？

☐

インシデント対応のコミュニケーション計画は文書化され、定期的に見直されていますか？

☐

利害関係者に情報提供するための要求事項は定義され、遵守されていますか？

コメント

A.9-AIシステムの使用

組織は、AIシステムが自社のポリシー、目標、倫理的な責任と整合する形で使用されることを確保しなければなりません。これには、使用の境界、責任、意図された成果の明確化が含まれます。

- ☐ AIシステムの責任ある使用のためのプロセスが定義されていますか？
- ☐ AIシステムが倫理的かつ適切に使用されるよう、目標が設定されていますか？
- ☐ 使用は意図された目的および文書化された手順に沿っていますか？
- ☐ 誤用や意図しない結果は監視され、対処されていますか？

コメント

A.10-サードパーティおよび顧客関係

AIシステムのライフサイクルのいずれかの段階に第三者が関与する場合、継続的な説明責任とコンプライアンスを確保するために、明確な役割、共有された責任、統合した期待が確立されていなければなりません。

☐

AIライフサイクル全体における第三者との責任分担は明確に定義されていますか？

☐

AIシステムに関与するサプライヤーの選定および管理のプロセスはありますか？

☐

顧客の期待は把握され、システム設計および運用に反映されていますか？

☐

サードパーティの役割は、継続的なシステムガバナンスの一環として見直されていますか？

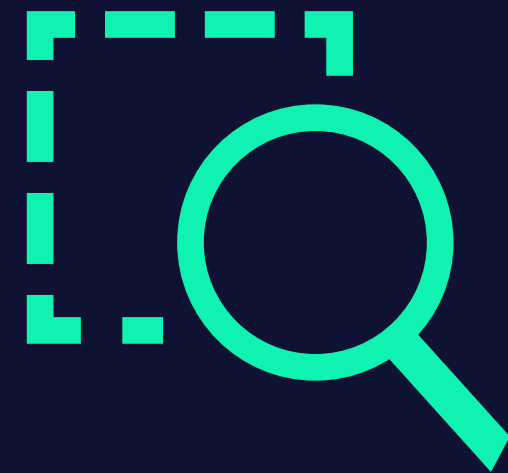
コメント

LRQAのISO 42001サービス



トレーニング

ISO 42001に関する知識を深めるために、さまざまな経験レベルに対応したコースを複数の学習スタイルで提供しています。



ギャップ分析

認証前に、審査員がシステムの重大・高リスク・弱点領域を特定するためのオプションサービスです。



認証

ISO 42001の要求事項に基づいてAIMSを評価します。特に附属書Aの管理策とそのシステムへの影響に重点を置いています。



統合審査

複数のマネジメントシステムを導入している場合、統合審査・定期審査プログラムにより、より効率的かつコスト効果の高いリスク管理が可能です。

受講可能なコースを見る

LRQAを選ぶ理由

LRQAでは、組織が安全で責任ある、そして効果的なAIとテクノロジーの導入を可能にする、堅牢で将来に備えたリスク管理プログラムの構築を支援します。

進化するAI規制への準拠から、データセキュリティの強化、ガバナンスにおけるベストプラクティスの導入まで、私たちはイノベーションを自信を持って推進するために必要な保証を提供します。これにより、企業はAIとテクノロジーを統合しながら、リスクを管理できます。

現場に根ざした専門知識

LRQAのソリューションは、サイバーセキュリティ、コンプライアンス、サプライチェーンリスク管理に特化したグローバルチームによって提供され、AI関連リスクへの対応、進化する規制要件への適合、責任あるAIの実践導入を支援します。

継続的な保証

AIによるリスクには継続的な監視が必要です。私たちのリアルタイムリスク管理アプローチは、問題の早期解決を可能にし、業務の中断を減らし、レジリエンスを高めます。私たちの統合されたリスク管理ソリューションは、規制要件を超えて、AIリスク管理を日常業務に組み込むことを支援します。。

ソリューションベースのパートナーシップ

LRQAは単に認証を行うだけでなく、AIガバナンスを広範なリスクおよびコンプライアンス戦略に統合するために協働します。私たちのカスタマイズされたアプローチは、AIとテクノロジーが持続可能な成長を促進し、進化する法的および倫理的な期待に応えることを保証します。

データ駆動型の意思決定

私たちはデジタルプラットフォームと分析を活用して、企業全体のAIリスクに関する深い洞察を提供します。人間の知見とデータ駆動型ツールを組み合わせることで、組織が脆弱性を特定し、将来のリスクを予測し、自信を持って意思決定できるよう支援します。



LRQAについて

LRQAは、審査、アドバイザリー、検査、サイバーセキュリティサービスにおける数十年にわたる比類のない専門知識を結集した、世界有数の保証パートナーです。データ主導の洞察力を基盤として、お客様の最大のビジネス課題の解決を支援しています。

150カ国以上で5,000人以上のスタッフが活動するLRQAは、受賞歴のあるコンプライアンス、サプライチェーン、サイバーセキュリティ、ESGの専門家が、ほぼすべての業種にわたる60,000人以上のクライアントが事業を展開するあらゆる場所で、リスクの予測、軽減、管理を支援しています。

LRQAは、あらゆる業務において、従業員、お客様、地域社会、そして地球環境のより良い未来の実現に尽力しています。

お問い合わせ

詳細については、lrqa.com/ja-jp をご覧ください。い合わせください。



LRQA リミテッド
〒220-6010
横浜市西区みなとみらい2-3-1
クイーンズタワーA10 階